令和6年度 山形県公立大学法人
第3回経営審議会
第3回教育研究審議会（米沢栄養大学）
第3回教育研究審議会（米沢女子短期大学）
議事録

1 日時 令和6年11月29日（金） 10:30～12:00

2 場所 B号館 2階会議室

3 出席者

<経営審議会>

（出席） 学内委員：阿部理事長、大和田理事、金光理事、小池理事
学外委員：加藤理事、清野理事、宮原委員、黒田（三）委員
（欠席） 学内委員：渡辺理事、松井理事
※委員10名中8名出席、定款第16条の規定により会議成立

<教育研究審議会（米沢栄養大学）>

（出席） 学内委員：阿部学長、大和田理事、金光理事、成田委員、吉田委員、安部委員
学外委員：清野理事
（欠席） 学外委員：吉池委員、熊谷委員
※委員9名中7名出席、定款第20条の規定により会議成立

<教育研究審議会（米沢女子短期大学）>

（出席） 学内委員：阿部学長、小池理事、吉田委員、西川委員
学外委員：清野理事、黒田（充）委員、結城委員
（欠席） 学内委員：松井理事
※委員8名中7名出席、定款第20条の規定により会議成立

<監事>

（出席） 高石監事、羽生田監事

<事務局職員>

（出席） 井瀧課長、佐藤課長、佐々木専門員、高橋主査、川越主査
（欠席） 鈴木次長、阿部主査

4 議事録署名人の指名

阿部理事長から、加藤理事（経営審議会）、金光理事（教育研究審議会[栄養大]）、黒田（充）委員（教育研究委員会[米短大]）の3名が議事録署名人に指名された。

5 報告

(1) 令和7年度入学者選抜について

事務局から報告資料1により報告がなされた。

結城委員から、米短大の学校推薦型選抜では志願者も受験者も昨年に比べ半分近く減っており、募集人員に対して3分の1くらいしか来ていないが、急に状況が変わったなど原因はあるのかとの質問がなされた。これに対し、小池理事から、大きな原因として少子化と短大離れがあると思うが、米短大の魅力をきちんと発信できていないのではないかと考えている。他の短大では

資格取得のような大学が多いが、本学は総合短期大学として4つの学科があり、様々な学びが可能であるということがまだまだ周知できていないのではないかと。特に東北地方の受験生は国公立大学を第一に志願していて、その後に首都圏ないしは仙台近郊の学校を目指す傾向にあり、そのような学生に対して米短大の存在とそこでできる学びについての発信がまだまだ足りないのではないかと考えている。また、教員自身が研究内容についてもっと広い意味で発信する努力も必要であり、おそらく米短大を受験しようとしている学生には教員の研究まではあまり知られておらず、単純に短期大学であるか四年制大学であるかの違いと捉えられていることが、志願者が減少している最大の理由ではないかと考えているとの回答があった。結城委員から、資格系の大学も大変苦勞しており、保育士、幼稚園教諭を目指す高校生自体も減ってきている。高校生の数が減っていると同時に、そういう分野を目指す志願者の比率が下がっていると感じており、東北文教大学、短期大学部も苦勞しているとの発言がなされた。

黒田（充）委員から、米短大の総合型選抜は志願者があまり減っていないが入学を確約する試験なのか、学校推薦型選抜との違いは何かとの質問がなされた。これに対し、阿部理事長から、総合型選抜とはかつてのAO入試であり、試験の内容は学校推薦型で小論文が課されるなど若干違うが、総合型選抜を受験し合格している学生と学校型推薦を受験したいと考えている学生はかなり重っているとの回答があった。小池理事から、元々は学校長から推薦をもらう形の学校推薦型で実施していたが、特に学校のカリキュラムに捉われずに、例えば社会情報学科であればイラストレーションが得意な学生や、商業高校での活動をアピールしたい学生に対してAO入試を実施するようになった。総合型選抜（AO）と学校推薦型選抜は、専願、入学確約型であり、結果として総合型選抜は志願者が多く学校推薦型は減っているように見えるが、年内に進路を決めてしまいたい、米短大に入学したいという学生はまずは総合型選抜を受験するパターンが増えているように感じており、その後に学校推薦、あるいは学校推薦の方が確実に受かるというような学生が学校推薦型選抜を受験するという傾向になっているとの発言があった。

黒田（三）委員から、以前米短大の学生から女子だけということに対して違和感があるという意見を伺ったことがあるが、今後も米短大は女子だけの方針なのかとの質問がなされた。これに対し、阿部理事長から、全国の中で公立女子短大は岐阜と本学だけあり、今後改組も含めて検討していく中で共学化は避けられないと考えているとの回答があった。また、黒田（三）委員から、米短大のアピールについて、例えば審議会委員も米短大の良さをすぐに言えるレベルにまで上げていくことが大切だと考える。全国トップクラスを誇る編入率の高さや卒業生の活躍、学費や生活費の低さ、米沢でのライフスタイルなど、学生や高校の先生、親御さんにもっとアピールしていけば良い方向に向かうと思う。地域活動に参加した学生から、様々な活動ができるこの短大で良かったという話も聞いているとの発言がなされた。阿部理事長から、将来的なことを考えれば、ここで何になれるのか、ここで学んでいることと職業がどう直結するのか、そこを示すことは経営側として非常に重要なことと考えているとの発言があった。

宮原委員から、米短大の魅力については前回の審議会でも話になったが、その後検討し全教員の意識の共有を図る動きはあったのか。例えば、短大の四大化という話は十年位前からされていると思うが、大学としての方向性をきちんと位置づけるよう内部で議論し、教員全体で共有し実際にPDCAを回すことが大事である。行き着くところは、大学の魅力をとことん伝える事が大切で、何が何でも米短大を受けたいと思わせるものは何かということ、常に日々議論して米短大の魅力づくりに結びつけることが必要であるとの発言がなされた。これに対し、阿部理事長から、前回の審議会を受けて役員会の後でも話をしているが、小池先生を中心に米短大の将来計画タスクフォースというのを立ち上げ月1回位のペースで議論している。今月の教授会においてタスクフォースの議論の中身について中間報告し、教員全員で危機感の共有を図った。米短大につい

ても、教員の研究がどう還元され地域に貢献できるか具体的に示すシーズ集のようなものがあればよいと考えている。十年位前から四大化の話があり、当時は吉田先生を中心にプランを作っていたことは承知しているが、自治体との関係もあり十分な議論をするには至っていないので、今後私の方でも訴えていきたいとの発言があった。小池理事から、タスクフォースではいろいろと議論しており、入試広報などを含めてドラスティックな改革をしていきたい。教授会では、教員がいろんな研究や教育実践、地域貢献を積極的に行うことが、地域住民や、審議会の委員、県に対して、米短大を失くしていけない、あるいは今後を見据えて四大化していくべきと思わせることになり、教員の頑張りにかかっていると話しているとの発言があった。

(2) 令和6年度卒業予定者の進路状況について

事務局から報告資料2により報告がなされた。

清野理事から、就職内定率が例年より低め（特に栄養大）だが、今後の見通しと内定率を上げるための取り組みについて質問がなされた。これに対し、大和田理事から、栄養大は高望みをしている学生が数名いるためかと思う。自分に合った就職先を選ぶようにすれば内定率100%は達成できると思うとの回答があった。小池理事から、米短大は学生がインターンシップや米沢市内で開催されたオープンファクトリーに積極的に参加しており、県内や置賜地域に関心がある学生も多いので、これから数字に表れることを期待しているとの回答があった。

加藤理事から、まだ少数だがオープンファクトリーに参加した学生が実際地元で就職しているケースも出てきている。様々な試みに学生が関わるには地域側も努力が必要で、オープンファクトリーでも企画段階から学生が関わる仕組みを作り、こんなところが見たいという声があれば参加する企業も増える可能性があるとの発言がなされた。

黒田（三）委員から、私が関わっている「okirakuキッチン」の卒業生（栄養大・米短大）の中には地元で就職したケースもあり、学生時代に地域の大人と関わり自己実現を図ることができた経験は地元定着にも繋がっていると実感している。車を持たない学生が地域活動する際には交通手段がネックとなっており、バスでは移動範囲が限られることから、学生向けのワンコインタクシーのような仕組みを検討してはどうかとの発言がなされた。これに対し、事務局から、今年度から本学においてもカーシェアを導入しており、積極的な学生はカーシェアを活用して地域を回って活動しているが、残念ながらそういう学生ばかりではないこともあり、栄養大と米短大の先生方に協力をお願いし金山町でフィールドワークを実施するなど、学生の活動範囲を広げ学びを深めていくことを進めている。まずは公共交通機関やカーシェアの利用促進を図り、地域活動に取り組んでいければと考えているとの発言があった。

加藤理事から、米沢市内では地域ごとにデマンド交通を既に実施している。学生版については、地域性と学生の負担能力を検討する必要もありそうだが、地域貢献活動だけでなく買い物ニーズなども考慮してデマンド交通の整備を検討要望する必要があるとの発言がなされた。

黒田（充）委員から、学生のフィールドワークの活動を増やすためには、やはり交通手段が問題となっていることから、栄養大、米短大、山大工学部は学園都市推進協議会の構成メンバーとして協議会に対してワンコインタクシーを積極的に提案していきませんかとの発言がなされた。

(3) 令和6年度授業料免除の状況について

事務局から報告資料3により報告がなされた。

(4) 令和5年度教員業績評価の結果について

事務局から報告資料4により報告がなされた。

黒田（充）委員から、米短大には栄養大のような分野（教育、研究、地域貢献・社会貢献、大学運営）ごとの比率はないのか。山形大学では職位ごとに重点的に取り組む項目を予め標準比率で示しており、教授の大学運営の比率を上げておくことで一定の業務を分担させることができ、

改革が必要な際には有効な手段になるとの発言がなされた。これに対し、小池理事から、分野で分けてはいるが比率は示しておらず、例えば地域貢献・社会貢献はフットワークの軽い若手の先生がしている場合が多く、現状を踏まえて比率を検討しないと上手くいかない気がするとの発言があった。

(5) 山形県立米沢栄養大学教員の公募について

事務局から報告資料5により報告がなされた。

(6) 山形県立米沢栄養大学の内部質保証に関する方針に基づく自己点検及び評価のガイドラインについて

(7) 山形県立米沢女子短期大学の内部質保証に関する方針に基づく自己点検及び評価のガイドラインについて

安部委員から報告資料6、7により一括して報告がなされた。

6 協 議

(1) 令和7年度 年度計画策定及び当初予算編成の方針について

事務局から協議資料1により説明がなされ、案のとおり承認された。

結城委員から、国立大学に比べて非常に窮屈な予算になっていると感じており、「法人及び両大学の諸課題に対応する施策に充当する」とある「2千4百万円」の一部については、柔軟かつ機動的に使える学長裁量費として確保してもらいたいとの発言がなされた。これに対し、事務局から、2千4百万円の中には入試や就職関係、大学案内作成などの経費も含まれており、物価高騰を受け今年度と同じことをしようとしても高い金額になる状況にあるため、難しいところもあるがなるべく学長裁量費を確保するように努力したいとの発言があった。

黒田（充）委員から、かつて国立大学の経営がある程度安定していた時は、学長裁量費、学部長裁量費もかなりの額を計上していたが、ここ数年国立大学の経営基盤が怪しくなり額は減ってきている。国立大学の場合は運営費交付金が渡し切りである一方、県予算では人件費と物件費を別建てで運用しているが、他県の県立大学の中には国立大学同様に完全に渡し切りでやっている大学もあるので制度的には可能だと思うとの発言がなされた。

結城委員から、国立大学法人と公立大学法人は法律的には全く同じ仕組みであり、支出と収入の差額が運営交付金として交付されるが、国立大学は渡し切りであるため人件費から物件費への運用も自由にできる。公立大学でもできないことはないはずであり、県の方針もあるかもしれないが制度的には全く同じだと思うとの発言がなされた。

阿部理事長から、制度的には同じであるが間に県が入ることによって人件費を自由に使えない仕組みになっている。物件費の中で学長裁量費を捻出するためには、教育や研究、広報など様々な経費に影響を与えざるを得なくなり、先生方に我慢を強いることにもなりかねない。人件費の点についてはご意見を踏まえ考えられるところがあるかももう少し検討していきたいとの発言があった。

(2) 山形県公立大学法人職員給与規程等の一部改正について

事務局から協議資料2により説明がなされ、案のとおり承認された。

黒田（三）委員から、通勤手当の負担が大きいとのことから額が上がるのは大変良いことだと思う。ある程度の先生方がこの地域や県内に暮らしていることも地域活性化に貢献するものと考えられるが、実際何%の方が米沢に居住しているのかとの質問がなされた。これに対し、事務局から、教職員（県からの派遣を除く）を採用するにあたり通えることを条件にしており、教員であれば裁量労働制の勤務体制であるため仙台から通っている方もいる。詳しいデータについては本日持ち合わせていないので、後ほど調べて回答したいとの回答があった。阿部理事長から、次回

の審議会において口頭で報告させていただきたいとの発言があった。

7 その他

(1) 令和7年度山形県公立大学法人事務局職員の採用について

事務局から、11月17日に1次試験を実施し、18名が受験し10名に合格を出したところであり、今後、12月15日に2次試験を実施し、最終合格者の発表は年内を予定しているとの報告があった。

(2) 今後の合同審議会の開催日程について

事務局からその他資料により説明がなされた。

【配付資料】

- 報告資料1 令和7年度入学者選抜について
- 報告資料2 令和6年度卒業予定者の進路状況について
- 報告資料3 令和6年度授業料免除の状況について
- 報告資料4 令和5年度教員業績評価の結果について
- 報告資料5 山形県立米沢栄養大学教員の公募について
- 報告資料6 山形県立米沢栄養大学の内部質保証に関する方針に基づく自己点検及び評価のガイドラインについて
- 報告資料7 山形県立米沢女子短期大学の内部質保証に関する方針に基づく自己点検及び評価のガイドラインについて
- 協議資料1 令和7年度 年度計画策定及び当初予算編成の方針について
- 協議資料2 山形県公立大学法人職員給与規程等の一部改正について
- その他資料 今後の合同審議会の開催日程について

議長 理事長(兼)学長 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____